



気 象 (No.2)

■ 雨

市内に降る雨の量（降雨量）は、年間平均2,100 mmほどですが、市役所と富士山の中腹にある天照神社とでは、年間400mmから500mmほどの差があり、高い場所へ行くほど、多く降っていることがわかります。

富士市では、市内での降水量のようすを知るために須津川上流、丸火自然公園、天照神社など、多くの場所へ雨量計を設置し観測をしています。

气象台では、1時間に20mm、6時間で60mmの雨が降ると予想されるとき「大雨注意報」を、1時間に40mm 6時間で120 mmの雨が予想されるとき「大雨警報」を出します。

家庭で降雨量を計るときは、コップを使うとよくわかります。例えば、コップに深さ2 cmの雨水がたまったら、そのときの雨量は約20 mmということになります。

コップにたまっただけで2 cmの水でも、広い面積に同じように降った2 cmの水が、低い所に集まってくると、何百、何千、何万倍と、どんどんふえていきます。だから降雨量には、十分注意しなければなりません。



■ 集中豪雨

昭和49年の七夕豪雨のことは、みなさんもよく知っているように、静岡や清水市で集中的に大雨が降りました。そのために山くずれや、地すべりが起きたり、洪水（こうずい）で家が水びたしになりました。

富士市内でも、浮島町にある東小学校で1時間に44 mm、6時間で236 mm、市役所では1時間に40mm、6時間で213 mmを記録し、愛鷹山ろくの東部地区では、道路がくずれたり、堤防がこわされたり、農作物も水につかり大きな被害がでました。

また51年8月9日にも、静岡県は集中豪雨による大きな被害を受けました。

台風13号の影響で、南から吹き込んだ湿った暖かい風が、紀伊半島にぶつかって、温暖前線をつくりました。この温暖前線が、厚い雨雲をともなって、静岡県を横断するような形となり、ところによっては雷を伴った強い雨に見舞われ、静岡气象台は同日正午に「大雨、洪水、雷雨注意報」、同日午後3時には「大雨、洪水警報」を出しました。雨は中、西部山岳地帯から岳南地区へと移り、各地で山崩やガケ崩れ、床上浸水交通しゃ断などの被害が続出しました。

とくに富士市は被害が大きく、総雨量こそ299mm（県沼津林業事務所育種場、海拔297m）と、七夕豪雨（333 mm、建設省富士川下流事務所、愛鷹山麓では400 mm近いと推測）より少なかったが、1時間に94mm（岩本山午後5時～6時）、2時間に168 mm（丸火自然公園・午後5時～7時）と午後5時から7時までの、2時間に集中しています。このため市内の中小河川のほとんどがはんらんし、大きな被害が出ました。とりわけ、赤淵川の被害が大きく、上流から押し流されてきた流木が、橋桁に引っかかって、濁流が橋を乗り越えて、人家に流れ込み、全・半壊した家が多く、住んでいた人達は逃げるのがやっとだったそうです。

（次回は「台風と雲で知る天気」を掲載します。）

第12回小中学校統計図表コンクール入賞者きまる

市では、市内小中学校の児童、生徒を対象に昭和53年度第12回統計図表コンクールの作品を募集していましたが、このほどまとまりました。それによると、応募点数245点（小学校157点、中学校88点）の中から図柄、色彩などきびしい審査の結果、次の作品が入賞しました。

▶ 小学校の部

- 市長賞 山崎さとし（富士見台小1年）
てんきしらべ
- 議長賞 後藤 孝（須津小2年）
セミのぬけがらがある高さ
- 教育長賞 池田千波（吉原小5年）
私の家の到着トラック調べ

▶ 中学校の部

- 市長賞 佐藤慶子（元吉原中2年）
あなたは、もう立派な先輩
- 議長賞 大竹達也（吉原三中2年）
老人、子どもを交通事故から守ろう
- 教育長賞 中川恵美子（富士南中3年）
富士市の交通事故件数

火災シーズン
火の扱いにご注意を

